

【普通科】 2年次 【選択】科目 「世界史B」授業のシラバス

1 概要

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	単位数(コマ数)	4(156)
科目の目標	①諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけ、現代の諸課題を歴史的観点から考える。 ②歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚や資質を養う。				
教科書(出版社)	詳説世界史B新訂版(山川出版) 地歴高等地図 現代社会とその歴史的背景(帝国書院)	副教材(出版社)	最新世界史図説タペストリー 十七訂版(帝国書院) 世界史用語集(山川出版)		

2 学習の方法

(1) 予習について

1年次において世界史Aについて学習してきました。基本的な姿勢は世界史Aと何らかわりません。しかし、大学受験を意識した場合、継続的な学習が必要となります。4000語を超えるといわれる世界史用語の攻略や世界史の流れをつかむ努力は欠かせないということです。特に原始・古代から現代までの歴史の流れをつかむという点に力を入れてほしいと考えています。考査や模試のたびに世界史用語の勉強をする人はたくさんいますが、教科書を何度も読むという人は意外に少ないという傾向があります。予習の段階を含めて世界史Bや日本史Bでは歴史の流れを理解することを強く意識し、教科書を何度も読むことを実践してください。

(2) 授業について

地歴公民科は授業で学習する情報量が他教科と比べると多い教科の一つといえます。したがって、復習することを考え必ずノートをつくる習慣を確実に身につけてください。小中学校までにノートをつくる習慣が身についている人でもなかなか大変ですが、ノートをとりながら授業を聴くようにしてください。もちろん、教員が黒板に書く事柄(板書)だけではなく、教員が話したことで自分が「重要な」と思ったことは積極的にメモをとりましょう。ノートの取り方、書き方全般は自由としますが、年度初めの授業において、ノートのとりかたなどのガイダンスをする予定ですので、参考にしてください。

(3) 復習について

理想をいえば、その日学習したことはその日のうちに復習するということでしょう。しかし、国語、数学、英語など予習、復習をしなければならない科目がたくさんあります。地歴公民科では、一週間ごとにまとめて復習することを提案しています。世界史Bは4単位ですので、毎週4時間分について(教科書の4~6ページ程度)授業が進みます。それを週末に授業のまとめノートをつくる、教科書を何度も読むことで、歴史の流れや重要な言葉を理解して欲しいと考えています。このようにして、できるだけ復習に時間をかけて欲しい理由は、復習をしなければ、知識はもとより思考力、判断力が身につかないからです。特に大学や公務員試験を受験しようとする人は、復習することが重要であることを忘れてはいけません。

〈学習アドバイス〉

時間と手間をかけずにものごとをマスターする方法はありません。教科書を何度も読み、時間の許す限り何度も復習に取り組んでください。できれば、繰り返し勉強するための基礎的な問題集を1冊(世界史Aの学習のときに購入した人は、それを利用してもかまいませんが、世界史B対応のものであること)手元におき、勉強してほしいと思います。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意欲を高めることができる。
② 思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、適切に表現することができる。
③ 資料活用 of 技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりすることができる。
④ 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解することができる。

(2) 評価の方法(以下観点①~④は「(1) 評価の観点」と対応する)

観 点	評価材料		定期考査・単元テスト	小テスト	ノート	ワーク	ワークシート
		割合					
① 関心・意欲・態度	○	25%	教科書教材の知識等に関する問題、ノート・ワーク提出、夏季・冬季休業中のレポートなど	○	○	○	○
② 思考・判断・表現	○	25%	考査における論述問題、ワークシートでの作業など		○		○
③ 資料活用 of 技能	○	25%	考査における論述問題、ワークシートでの作業など		○		○
④ 知識・理解	○	25%	教科書教材の知識等に関する問題など				

〈担当者からのメッセージ〉

授業での疑問点や成績のこと、単位認定などの不明な点は、いつでも担当の教員に質問してください。それぞれの質問について個別に対応したいと考えています。1年間、一緒にがんばって勉強していきましょう。

【普通科】 2年次 【選択】 科目 「世界史B」 授業のシラバス

4 授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等
前期 4	オリエント世界と地中海世界	12	・西アジア、地中海一帯の地理的特質の把握、オリエント文明の盛衰、エーゲ、ギリシアヘレニズム文明の特徴を理解する。	①	・各古代文明の概要を理解することを通じて世界の歴史について関心を高めることができる。	前期中間考查
5	アジア・アメリカの古代文明	16	・ローマ、インド、東南アジア、中国、南北アメリカの諸文明の地理的特質の把握、文明の特徴、形成過程を理解する。	④	・諸文明の特徴や文明間の結びつき、その後の歴史に与えた影響等を理解することができる。	
6	内陸アジア・東アジア世界 イスラーム世界の形成と発展	12	・東アジアの北方民族の動向、三国時代から隋唐帝国の経過、制度、文化の特徴を理解する。 ・イスラーム世界の成立とその成立、発展について理解する。	④	・東アジアにおける漢民族の動向と北方民族の対立構図を理解することができる。 ・イスラーム教のはじまりと世界への展開過程、イスラーム帝国の形成過程について理解することができる。	
7	ヨーロッパ世界の形成と発展 内陸アジア・東アジア世界	16	・ゲルマン人移動後のヨーロッパにおける封建社会の成立、ビザンツ帝国の繁栄、十字軍以降の変容を理解する。	③	・ゲルマン人の大移動や十字軍の皇帝などの資料から世界に与えた影響を読み取ることができる。	
8	アジア諸地域の繁栄	8	・内陸アジアにおけるトルコ人の動向、遊牧諸民族台頭、東アジア諸国の興亡とその文化について理解する。	④	・アジア諸地域の各民族の興亡と文化について理解することができる。	
9	近世ヨーロッパの形成 近世ヨーロッパ世界の展開	12	・ヨーロッパ世界の拡大と新大陸への進出、ルネサンス、宗教改革の意義について理解する。 ・17～18世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向を、重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。	②	・ルネサンスや宗教改革が起こった背景と結果について考察し、それを表現することができる。	
後期 10	近代ヨーロッパ・アメリカ	20	・産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命と近代民主主義に与えた影響を考える。	③	・主権国家体制の成立過程を理解し、絶対君主と啓蒙専制君主の違いについて考え、それを表現することができる。	
11	欧米の近代国民国家の発展	20	・ウィーン体制の成立とヨーロッパの自由主義、ナショナリズムの運動を理解する。	②	・各革命の図表や人権に関する宣言等を読み解き、それが成立した背景などについて考えることができる。	
12	アジア諸地域の動揺 帝国主義とアジアの民族運動	12	・西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革、インドの植民地化、インドの植民地化など東アジアの国際秩序の再編を理解する	③	・アジア諸地域の統治体制の動揺と植民地支配の過程について、資料に基づいて考えることができる。	
1	二つの世界大戦	8	・帝国主義の特質と従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。 ・第一次世界大戦、ロシア革命、国際連盟の成立、世界恐慌、第二次世界大戦の過程、展開、影響などを理解する。	③	・帝国主義の形成過程について、宗主国による植民地面積の拡大や経済規模の広がりなどの資料から読み取ることができる。	
2	冷戦と世界大戦 第三世界の独立	12	・第二次世界大戦後、米・ソを中心とした冷戦体制が成立、アジア・アフリカ諸国が第三勢力として躍進、ドル＝ショック、オイル＝ショック以降の国際経済の再編、冷戦の終結への流れを理解する。	②	・二つの世界大戦が起こった背景と結果について考察することができる。	
3	現在の社会	8	・1990年代の情報技術革命とグローバル経済の進展、世界で多発する地域紛争紛争解決や軍縮の試みを理解する。	①	・大戦終了後の再編された冷戦世界の対立軸を明らかにしながら、現代社会との結びつきについて関心を高めることができる。	
		156			・現代社会の諸課題についてこれまで学んだ知識を活用して考えることを通じて国際問題や日本の役割について関心を高めることができる。	後期中間考查 後期期末考查 単元テスト

※ 観点別評価①は関心・意欲・態度、②は思考・判断・表現、③は資料活用の技能、④は知識・理解を表しています。

※ 授業計画は進度により前後することがあります。